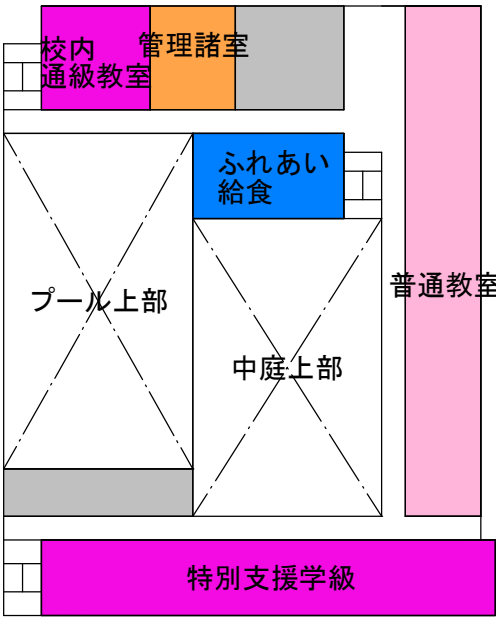
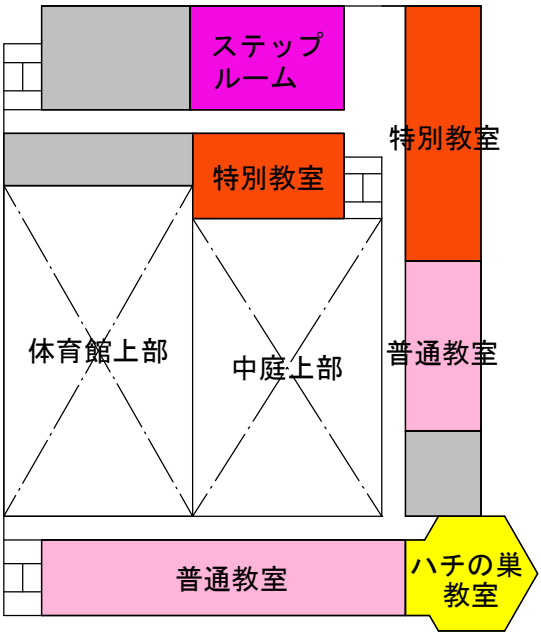


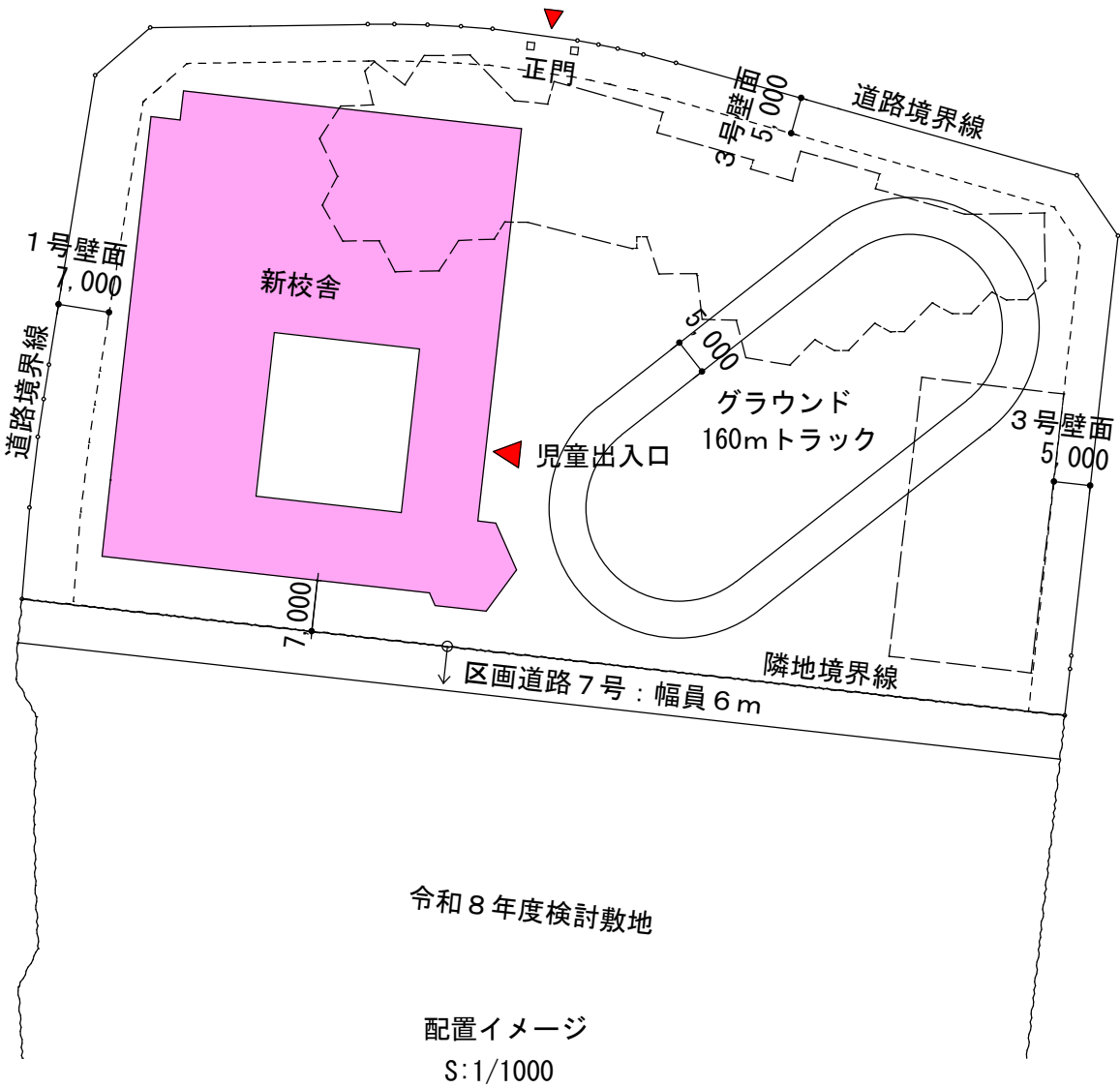
◇仮設校舎の要否、建設コスト、工期などを踏まえ、3案を比較検討した。	◇普通教室 18室 2～4階南または東向き
◇最終的には、他2案と比べて校舎規模の確保と体育館の配置に優れる案を採用した。	◇特別教室 5室 3, 4階に概ね北側と中庭に面して
◇中庭を中心とした計画で、校舎内の動線が短い。	◇ハチの巣教室 2室
◇通風・採光をバランスよく確保できる。	
◇東西方向の長さを抑えることで、近隣への日影の影響が少ない。	
◇日影規制に対応するため階高を抑える必要がある。	



2階平面図

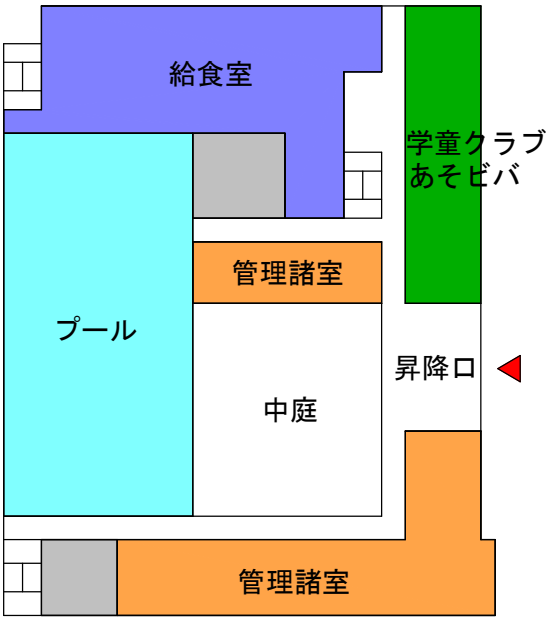


4階平面図

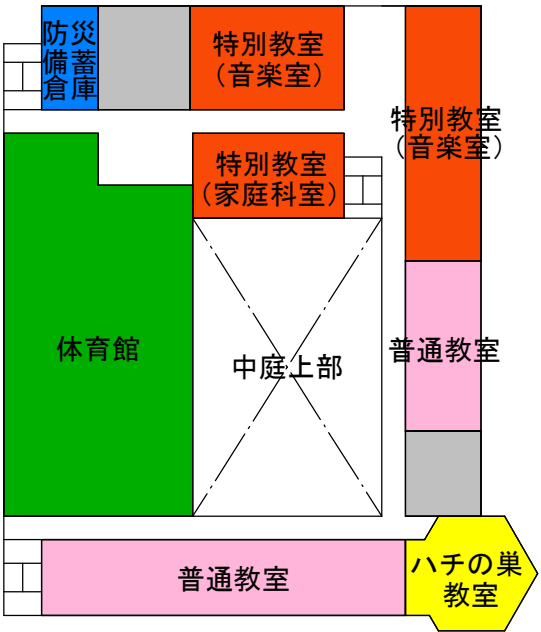


令和8年度検討敷地

配置イメージ
S:1/1000



1階平面図

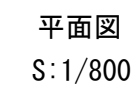
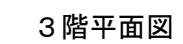
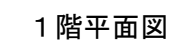
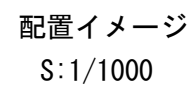
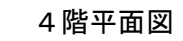
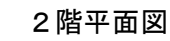


3階平面図

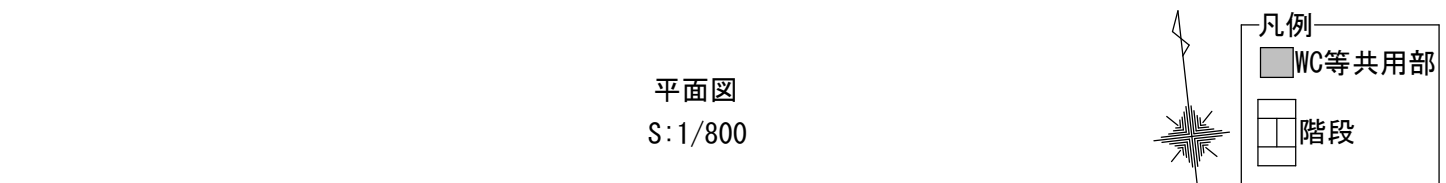
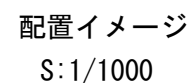
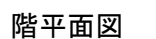
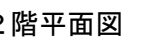
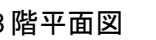
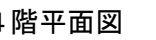
平面図
S:1/800

凡例
■ WC等共用部
□ 階段

特 徴	教室等の配置
◇令和6年度最終案を踏襲し、中庭型のプランとした。 ◇日影規制に対応するため、令和6年度最終案の全4階建てに対し、北側の一部を3階建てとした。 ◇3階建て部分に配置できない諸室は、中庭側に再配置して補完した。 ◇中庭型プランは、動線がコンパクトにまとまる点を特徴とする。 ◇グラウンドのトラックは、令和6年度最終案から170mとした。 ◇南向き諸室については、建築基準法に基づく採光を確保するため、南側境界線から7m以上の離隔を確保する必要がある。 ◇プールは屋内とし、通年利用及び地域開放に対応可能とした。 ◇プール上部に体育館を配置し、大スパン構造に対応しやすい計画とした。 ◇災害時には、体育館を避難所として活用可能とした。	◇普通教室 18室 2～4階南または東向き ◇特別教室 5室 3, 4階に概ね北側と中庭に面して ◇ハチの巣教室 2室

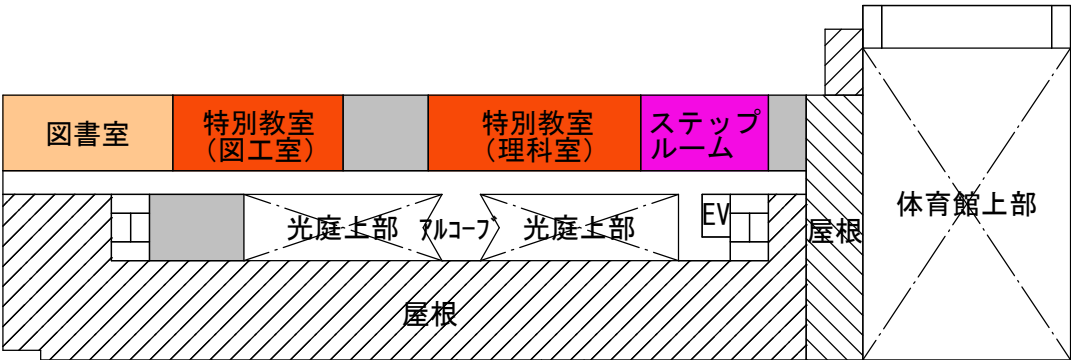


特 徴	教室等の配置
◇校舎を敷地北側に配置した計画。 ◇東西方向の動線はA案より長くなるが、校舎内のゾーニングは比較的明快である。 ◇諸室は南向き、又は、北向きに配置する。 ◇光庭を設け、通風・採光を確保する。 ◇日影規制により、校舎は北側隣地境界線から約14m離して配置している。 ◇グラウンドは南側に東西方向へ長く確保可能。 ◇プールは屋内とし、通年利用及び地域開放に対応可能とした。 ◇プール上部に体育館を配置し、大スパン構造に対応しやすい計画とする。 ◇災害時には、体育館を避難所として活用可能とした。 ◇アルコーブをハチの巣型にしている。	◇普通教室 18室 2、3階南または東向き ◇特別教室 5室 3階北向き、4階南向き ◇ハチの巣形状 2～4階 南北廊下の繋ぎ部分アルコーブにてふれあいスペース

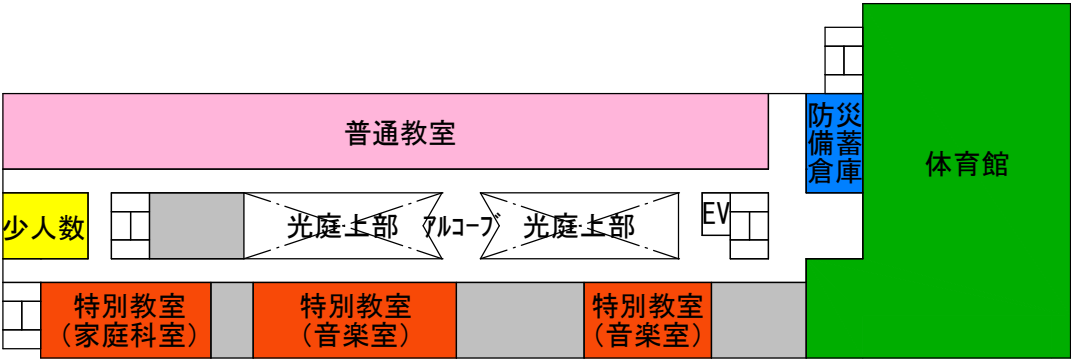


C案：校舎を敷地南側に配置

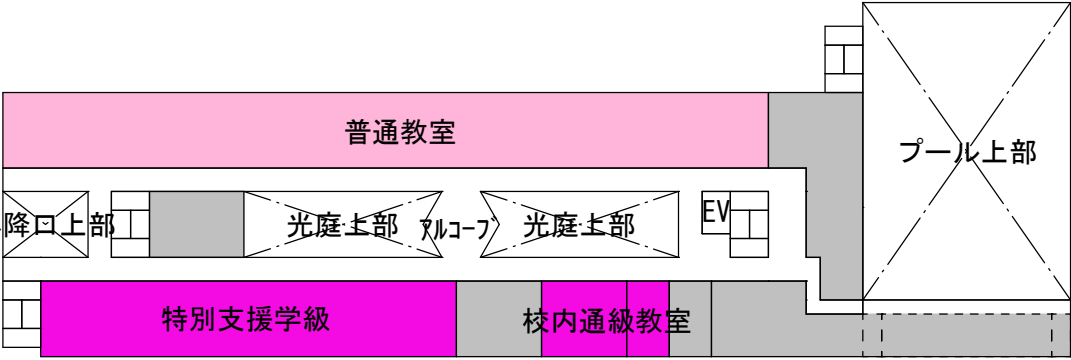
特 徴	教室等の配置
◇校舎を敷地南側に配置した計画。 ◇東西方向の動線はA案より長くなるが、校舎内のゾーニングは明快である。 ◇児童が最も長時間過ごす普通教室は北向きとし、年間を通じて均質な採光を確保する。 ◇光庭を設け、通風・採光を確保する。 ◇日影規制による影響はほとんどない。 ◇南向き諸室については、建築基準法に基づく採光を確保するため、南側境界線から7m以上の離隔を確保する必要がある。 ◇グラウンドは北側に東西方向へ長く確保可能であるが、冬季は終日校舎の影がかかる。一方で、夏季は校舎による日射を遮る効果があるが、降雪時は融雪しにくいため、グラウンドの状態が悪い。 ◇プールは屋内とし、通年利用及び地域開放に対応可能とした。 ◇プール上部に体育館を配置し、大スパン構造に対応しやすい計画とする。 ◇災害時には、体育館を避難所として活用可能とした。	◇普通教室 18室 2、3階南または東向き ◇特別教室 5室 3階南向き、4階北向き ◇ハチの巣形状 2～4階 南北廊下の繋ぎ部分アルコーブにてふれあいスペース



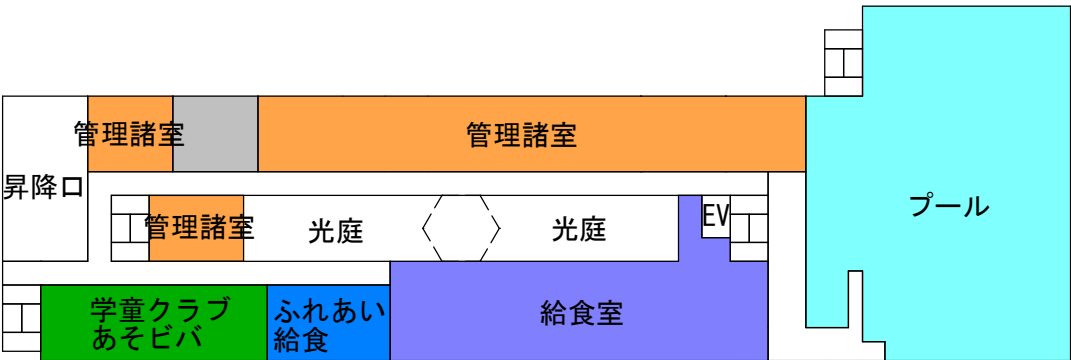
4 階平面図



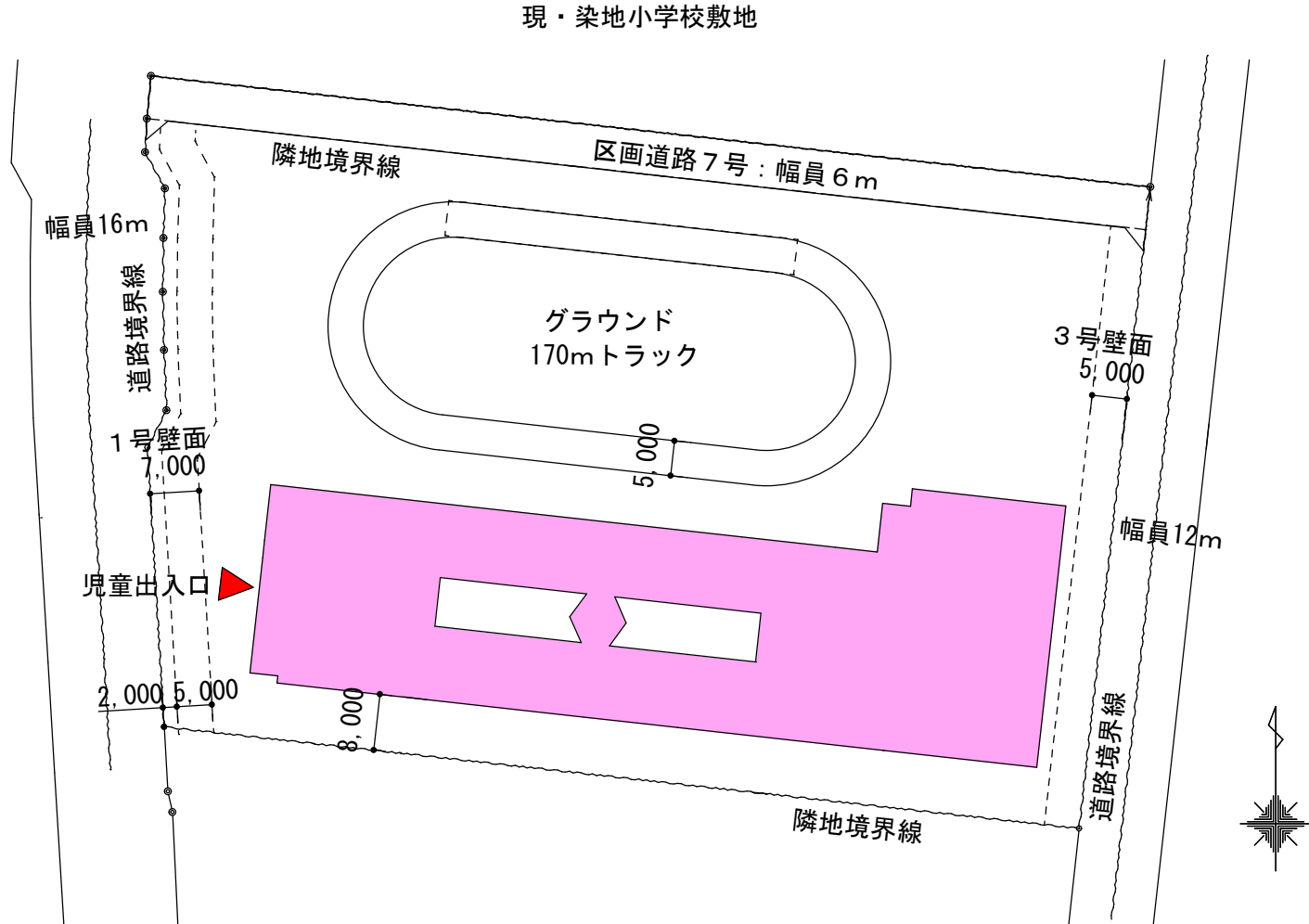
3 階平面図



2 階平面図



1 階平面図



配置イメージ
S:1/1000



平面図

S:1/800

凡例

WC等共用部

階段